

第5節 3日目:2月18日(土):真土～宇和島 曇り/晴れ

2023年2月18日(土)曇り/晴れ、西南四国の旅の3日目は、予土線の真土駅から宇和島駅まで営業キロ26.5km(うち北宇和島～宇和島1.5kmは予讃線で踏破済み)に挑戦する。昨日と同様宇和島発6時4分の始発電車で臨む。ホテルを出た際は小雨模様であったが、真土駅到着の頃には雨があがっていた。折り畳み傘はリュックにあったが、明日は雨模様とのことで、ホテル1階にあるコンビニでビニール傘を購入する。ビニール傘は雨風にも強いし視界も広いので最適。昨日と異なり曇り空であったので、夜明けが少し遅く感じられた。本日は土曜日のため、高校生の姿はなかった。昨日と同様、松丸駅で昨日下車した方がおり、2名となる。このままでは、真土駅で私が下車したら1名になるのでは心配していたところ、吉野生駅で1名の乗車があり3名となり安堵する。



※宇和島駅、真土駅

真土駅には7時到着。運よく夜は明けていた。暫く歩いた先で昨日江川崎界限にてジョギングした影響で右膝辺りに少し痛みを感じるが、暫く歩いた先で痛みが和らぎ安堵する。瞬間的にはアップも考えたが、このような場面はこれまでのウォーキングで何度も経験しており、「筋肉が温まって来ると収まるだろう」と判断し、継続して歩いたのが功を奏した。予想通り吉野生駅到着の頃には気にならない程度に収まっていた。

本日は昨日と異なり、田園地帯を軸とする歩きとなった。各駅舎立ち寄り時刻は次の通り。

真土(7:02)～吉野生(よしのぶ、7:41)～松丸(8:26)～出目(いずめ、9:35)～近永(10:10)～深田(11:01)～大内(11:55)～二名(ふたな、12:21)～伊予宮野下(13:10)～務田(むでん、13:33)～北宇和島(15:29)～宇和島(16:00)

①真土橋を渡り、国道 381 号線に出る。7 時 20 分、ある神社前で本日の安全を祈願する。途中、国道 381 号線と分岐する左折する道筋を地図から判断して恐る恐る進む。くねくねした山道を歩く。暫く歩くと右手に JR 線が確認できホットする。そして鉄道に近づく歩きとする。7 時 40 分、吉野生交流センターがあった。ここから 100m 位歩いた先に吉野生駅(7 時 41 分)があった。7 時 51 分、万歩計で 208 歩ある広見川に跨る蔵王大橋を渡る。くねくねした道筋を進む。8 時 21 分、松野町役場前を通過する。その先に予土線の途中駅で随一立派な駅舎をもつ松丸駅には 8 時 26 分到着する。この界限には民家が沢山あった。



※吉野生駅への路





※吉野生駅



※松丸駅への路、松野町役場





※松丸駅

②8時44分、山の下バス停(宇和島バス)前を通過。そして、高台にある出目峠バス停(9時16分)前を通過。9時31分、出目踏切を横切り、鉄道の右側となる。100m位戻った先に出目駅(9時35分)があった。9時50分、160歩ある奈良川橋(奈良川)を渡る。10時30分、110歩ある陽路橋を渡る。9時58分、鬼北町防災センター前を通過。鬼の画像で一杯の鬼北町の中心の近永駅には10時10分到着する。駅界限は商店街が広がっていた。この駅から200m位歩いた先に今朝かったビニール傘を近永駅トイレに置き忘れに気づき引き返す。5分位ロスタイムが生じる。



※出目駅への路



※出目駅



※近永駅への路。鬼北町防災センター



※近永駅



※鬼の絵、渡辺牧場

③県道 283 号線 (広見吉田線) を歩く。10 時 36 分、広見町清延前を通過。そして。10 時 51 分、乳牛が一杯いる渡辺牧場前を通過。くねくねした農道を歩き、深田駅には

11時1分到着。130歩あるてんおう橋を渡り、県道283号線に合流する。11時27分、鬼北町から宇和島市に入る。大内駅には11時55分到着。そして、県道283号線を淡々と歩いた先に二名駅(12時21分)があった。



※深田駅



※山羊を背後にして、大内駅への路



※大内駅



※二名駅への路



※二名駅

④12時46分、三間町元宗を通過。12時51分、宇和島市立三間幼稚園前を通過。13時10分、伊予宮野下駅に到着。丁度宇和島方面の列車がやってくる。13時17分、宮野下第1号踏切を横切り、鉄道の左側となる。13時26分、月見橋界限で印象的な花壇がある地点を通過する。列車の中でコンビニの明かりが印象的な務田駅には13時33分到着する。この駅で宇和島駅から真土駅まで一緒であった撮り鉄ファンと遭遇する。「またお会いしましたね」と声をかけ別れる。



※伊予宮野下駅への路、伊予宮野下駅



※伊予宮野下駅



※花壇前、務田駅すぐ



※務田駅

⑤務田駅から北宇和島駅までの営業キロ 6.3 kmは本日の区間では最も長い区間であった。県道 57 号線(広見三間宇和島線)を、山の谷間を潜りながら歩く。13 時 43 分、窓峠跨線橋を跨ぎ鉄道の右側となる。13 時 53 分、宇和島市新屋敷を通過する。14 時 16 分、高速道路下を潜る。14 時 36 分、梅林口バス停前を通過。やっと予讃線の線路を跨ぐ。100m 位先には予土線と予讃線が並走し、その先には北宇和島駅があった。15 時 23 分、天理教踏切から左手 300m 位先に宇和島駅があった。予讃線の旅でも北宇和島駅を通り過ぎ、宇和島駅まで行き引き返す場面もあったが、幸いなことに本日はそこまでの事態にならず安堵する。マンションが背後にある北宇和島駅には 15 時 29 分到着する。



※北宇和島駅への路



※予土線と予讃線が合流



※北宇和島駅



※北宇和島駅

⑥宇和島市内を線路に沿って歩く。鉄道の左側は小高い丘があり、15時43分、JR線下を潜り、鉄道の右側となる。間もなく歩くとホテル界隈の道筋に出る。宇和島駅には16時到着。



※宇和島駅への路



※宇和島駅

⑦ホテルで汗を流しあと、三顧の礼を尽くすため、ほづみ亭に立ち寄り、宇和島の最終日を堪能し英気を養う。お陰様で右足の膝辺りの痛みは解消されホットする。この調子であれば、予土線・中村線・宿毛線の踏破も可能である見通しがたちホットする。



※ほづみ亭で三顧の礼！！最後は鯛めしで

第6節 4日目:2月19日(日):土佐昭和～窪川 雨／曇り

2023年2月19日(日)雨／曇り、西南四国の旅の4日目は、予土線(土佐昭和～若井:営業キロ26.5km)と土佐くろしお鉄道(若井～窪川:4.4km)に挑戦する。今回の旅で30km超えと最も長い旅となった。しかもリュックを背負い雨模様で最悪のコンディション。かつ、歩く道筋には四万十川や山々が立ち塞がり、難関なコースであったが、これまで培ってきた体験の活用と必殺仕置人の心境で臨むこととする。当初の歩きでは、土佐昭和～家地川までの20.7kmであったが、ダイヤの関係から急遽、家地川～窪川までの10.2kmを加えて臨むことにした。先憂後楽の考え方から結果大正解であった。



※ホテルチェックアウト

宇和島を6時4分始発で土佐昭和を目指す。今日は日曜日のこともあり、乗り鉄ファンや撮り鉄ファンなど7名の乗客の姿があった。各駅到着時刻は次の通り。

土佐昭和(7:37)～土佐大正(10:40)～打井川(うつい、13:05)～家地川(15:07)～若井(18:32)～窪川(19:50)



※宇和島駅



※土佐昭和駅

①小雨の中、7時37分、今回の旅で最も長い区間(8.9 km)である土佐大正駅を目指す。これまで22年余の歩きで最も長いのは、宗谷本線の、天塩川沿いにある佐久～箆島(おさしま)までの18.0 kmである。それに比べれば半分の距離なので平常心で臨むことができる。7時40分、国道381号線にある昭和小学校体育館を通過。7時52分より、最初のトンネルである三島トンネル(万歩計で452歩)を通り抜ける。7時59分、第4四万十川橋梁を渡り鉄道左側となる。8時1分、四万十町三島を通過。8時24分、暑くなりジャケットを脱ぐ。8時51分、瞬間的に雨上がる。8時55分より70mの津賀トンネルを通過する。9時2分、76歩ある音無瀬橋(津賀の川)を渡る。9時17分、四万十町茅吹手を通過。9時39分、右手200m位先の列車と対面する。9時46分より全長565mある浦越トンネルを通過する。10時、十和村から大正町となる。今は合併し共に四万十町。10時12分より、全長178mある田野トンネルを通過する。10時12分、212歩ある大正橋を渡る。10時23分、JR線下を潜る。10時27分、石鎚神社前で本日の安全を祈願する。大正の街並みを歩き、歴史を感じる土佐大正

駅には 10 時 40 分到着する。特に国鉄の看板や土佐大正駅のレトロな看板が強く印象に残った。駅舎の中にはひな人形が飾られていた。この駅で数分滞在する。



※土佐大正駅への路、田野々トンネル、大正橋



※土佐大正駅への路、国鉄土佐大正駅の看板





※土佐大正駅、懐かしいフコク生命たばこ看板(50年前を思い出す)

②11時、熊野神社前から少し行った先で国道381号線に合流する。11時16分、道の駅住次郎前を通過。11時23分、打井川7km、四万十町役場22km、須崎50kmと記した道路標識前を通過。11時29分、JR線下を潜り、鉄道の左側となる。11時36分、四万十町瀬里を通過。11時56分、完全に雨上がる。12時12分、四万十町下岡を通過。12時55分、肌寒くなったのでジャケット着る。13時、159歩ある打井川橋(四万十川)を渡る。100m位戻った先に打井川駅(13時5分)があった。道路から急な階段を10m上がったところにあった。足腰の弱い方はとても上れないような環境であった。幼少の頃上った火のみ矢倉を思い出した。再度、打井川橋を渡り国道381号線に合流する。



※打井川駅への路



※渡川、打井川駅



※打井川駅

③13時26分現在、温度は12℃であった。13時46分、四万十町北川を通過。13時53分、141歩ある北川橋(相去川)を渡る。13時53分より、全長137mある広瀬トンネルを通過する。14時26分、288歩ある野地橋を渡る。ここから四万十川に沿ったくねくねした道筋を歩き、やっと家地川駅(15時7分)に到着する。駅舎はトンネルを出た先にあった。この駅舎への立ち寄り、今回の旅の中では最も難しい環境にあった。



※家地川駅への路





※家地川駅

④若井駅への道筋は地図の解釈を誤り、土佐くろしお鉄道の荷稻(かいな)駅方面に進んでいた。15時50分、若井トンネル辺りまで進行するが、この道筋を幾ら進行しても若井駅には到達できないと判断し、勇気をもって引き返す。再度、家地川駅経由で国道381号線の合流地点(16時48分)まで引き返す。1時間位ロスタイムが生じる。



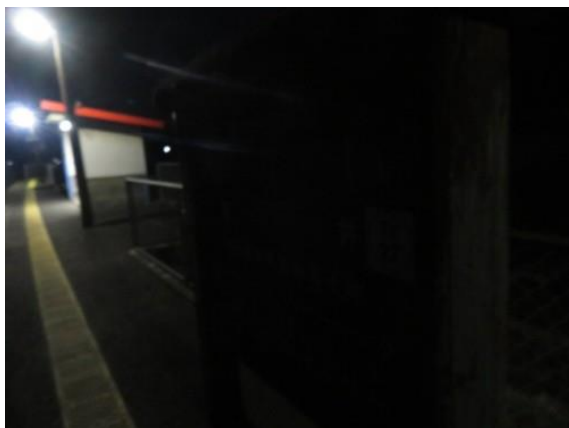
※誤った路を進む、国道381号線に合流



※井細川、若井駅

途中、年配の女性に直面し、お伺いしたことが功を奏す。それは、「二つ目の橋を渡った先に若井駅があります」との回答であった。しかし、歩いていても歩いていても一つ目の橋は登場しない。そのうちに辺りは暗闇となる。やっと一つ目の橋を見つける。ここで渡るか否か右往左往するが、教えて頂いた通り直進する。もし、渡っていれば、途中で山が前方に塞がり行き止まりとなる可能性が多々あった。ここから20分位歩いた先で民家が多くなる。うす暗い先に橋がうっすら見えて来る。丁度橋を渡ろうとした瞬間、ラッキーにも橋の向こうに列車の明かりが見えて来る。若井駅近いと確信する。

橋を渡り、100m 位戻った線路下を潜って歩いた先に若井駅(18時32分)があった。残念ながら暗闇のため、若井駅標識は確保できなかった。しかし、難関な若井駅を踏破でき達成感に浸る。この駅で5分位滞在しておれば、宿毛方面(18時38分)の列車到着の明かりでカメラに収納できたかも。でも、そのような余裕は全くなかった。



※若井駅

⑤橋を渡り、国道381号線に合流する。辺りは暗闇で街頭はなし。車の明かりと白い車線を頼りに暗中模索で用心に用心して必死に歩く。このような体験は、2012年6月16日(土)、青い森鉄道の北高岩駅(20時15分)から八戸駅(21時35分)に向かう際にも。懐かしい記憶が蘇る。19時20分、窪川橋を渡る。暗闇のため、窪川駅や美馬旅館わからず。19時9分、美馬旅館から確認の電話ある。「窪川駅に向かっています。19時半頃到着見込みです」と回答。何人もの地元のお世話になり、19時40分やっと美馬旅館に到着。この旅館で最寄り地図をもらい、窪川駅には19時50分到着する。本日の歩きにより、予讃線(高松～宇和島)と土讃線(窪川～多度津)を結ぶ”予土線(宇和島～北宇和島～若井～窪川)”が繋がる。



※窪川駅

⑥美馬旅館の紹介で 20 時 10 分、居酒屋”いろり”に駆け込むことができる。ここで 21 時少し前まで英気を養う時間を頂く。本日は、悪天候の中、重いリュックを背負い、12 時間も歩き続けた 70 歳を過ぎた自分を褒めてあげたい。有言実行の重みをひしひしと感じる一日となった。

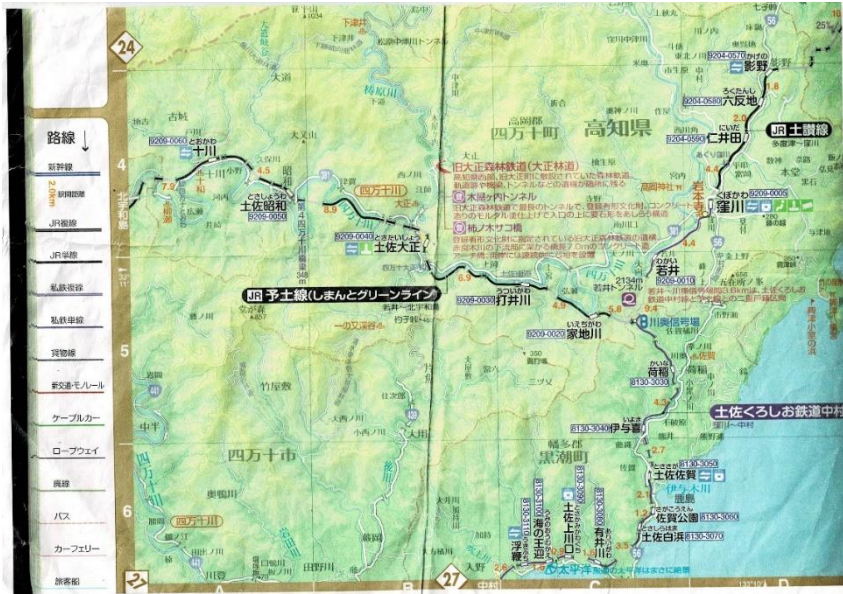


※美馬旅館、居酒屋”いろり”

第 7 節 5 日目:2 月 20 日(月):窪川～土佐佐賀 晴れ

2023 年 2 月 20 日(月)晴れ、西南四国の旅の 5 日目は、土佐くろしお鉄道の窪川駅から土佐佐賀駅までの営業キロ 20.8 km に挑戦する。当初は窪川～荷稻(かいな)までを、窪川～若井～家地川～荷稻よるつたい歩きで対応すくことを想定していたが、昨日、家地川～若井～窪川を歩いた関係で、途中若井駅を立ち寄らないで、国道 56 号線をひたすら歩き窪川駅から荷稻駅まで(13.8 km)を直接歩くことにした。なお、

山々の関係で、窪川～若井～荷稻のコースは不可能。土佐くろしお鉄道(四万十くろしおライン)の開業歴史は次の通り。本日から3日間で次表の路線を歩くことにする。



鉄道名	路線名	区間	開業日	営業キロ
土佐くろしお鉄道 (四万十くろしおライン)	中村線	窪川～土佐佐賀	1963年12月18日	20.8
		土佐佐賀～中村	1970年10月1日	22.2
	宿毛線	中村～宿毛	1997年10月1日	23.6

朝食を済ませ、7時40分、37番札所”岩本寺”を参拝し本日の安全を祈願する。美馬旅館を8時18分チェックアウトし、窪川駅に8時28分立ち寄り、駅舎にある陸橋を経由し、鉄道の左側を走る国道56号線に出ることとする。各駅舎立ち寄り時刻は次の通り。





※美馬旅館





※37 番札所”岩本寺”



※美馬旅館チェックアウト



※窪川駅への路、窪川駅



※窪川駅

窪川(8:28)～荷稻(12:58)～伊予喜(14:29)～土佐佐賀(15:40)

①8時35分、四万十町役場前を通過。8時42分、国道56号線に合流する。8時46分、暑くなりセーターを脱ぐ。この際、傘を忘れ、5分位引き返す場面となる。9時23分、四万十町金上野前を通過。10時6分、宇和島130km、四万十市(旧中村市)41kmと記した道路標識前を通過。アップダウンの坂道から平坦となる。10時15分、峰ノ上バス停前(四万十交通)を通過する。只今現在の温度は9℃であった。この辺りから下り坂となる。10時23分、松山222km、四万十市40km地点を通過。



※四万十町役場、荷稻駅への路

10時26分、四万十町から黒潮町となる。10時36分、黒潮町市野瀬を通過。10時37分より片坂第一トンネル(80m)、10時39分より片坂第二トンネル(130m)、10時51分より片坂第三トンネル(62m)を順次通過する。10時39分より、大きく回る市野瀬橋を通過する。この辺りで窪川～荷稻の中間点にやっと到達し安堵する。11時1分、松山220km、四万十市38km地点に到達。11時26分、橘川という標識前を通過。11時30分、地元の方に荷稻駅まで4km～4.5kmとお伺いする。しかし、ここから荷稻駅までの道りは遠かった。11時36分、宇和島125km、四万十市36kmと記した道路標識前を通過。この辺りで上り坂となる。11時51分、松山217km、四万十市35km地点に到達。



※荷稻駅への路、四万十町から黒潮町へ



※片坂第一トンネル



※大きく回り込む道路(市野瀬)

12時、拳ノ川とある地名標識前を通過。12時10分、休業中の佐賀温泉前を通過。この境界で高速道路に入る道路が交差しており、誤った方向に進行しないよう注意して歩く。12時28分、松山215km、四万十市33kmと記した標識前を通過。この境界で荷稻駅への道路標識があり。国道56号線を右折し脇道に入る。暫く歩くと八坂神社があった。本来であれば、この境界を左折し道なりにくねくねと歩いた先に荷稻駅があったが、まさか山の裾野に駅舎があると思わず直進する。暫く歩いた先で左手200m位先に駅舎らしきが見える。暫くすると窪川方面に向かう列車がやってくる。しかし、2度農道を直進するが、いずれも田んぼや川で前方を遮られ、荷稻駅(かいな)には行けず。やっと地元の人に聞いて、「荷稻駅への道筋」を教えて頂く。「50m位歩いた先に荷稻駅に行ける道筋があります」と教えて頂く。道幅1m~2m位の田んぼ路をくねくね歩いた先に荷稻駅(12時58分)があった。近くには工事現場があった。この駅で宿毛方面の特急が通過して行く。13.8kmの道筋を4時間半要して歩く。この駅には工事現場の方が数人おられた。本日の最大の難所をクリアできホットする。



※佐賀温泉界限、荷稻駅案内版



※荷稻駅の看板を見逃す！！



※遠くに荷稻駅、荷稻駅への路、荷稻駅



※荷稲駅、特急”あしずり”が通過して行く



※荷稲駅

②帰り路は王道な道筋を歩き、八坂神社先の道筋まで出る。13時10分、国道56号線に合流する。13時12分、宇和島122km、四万十市33km地点を通過。13時25分、黒潮町小黒川を通過。その先で松山214km、四万十市32kmとある標識前を通過。この界隈から下り坂となる。13時31分、文殊堂前を通過。ここで数分立ち止まり、

文殊の知恵もある掲示板を一読する。13時53分、不破原の地名を通過。14時18分、道路標識では四万十市29kmとあった。14時29分、伊与喜駅に到着する。丁度窪川方面の列車がやってくる。



※土佐佐賀駅への路、文殊堂



※文殊堂の解説



※伊与喜駅

③14時40分、JR線を跨ぎ、鉄道の右側となる。14時44分、万歩計で206歩あるかいどう橋(伊予木川)を渡る。ここからは右手に伊与木川、左手にはJR線に注視しながら歩く。14時50分、藤縄という地名を通過。15時3分、白石バス停(四万十交通)前を通過。15時20分、道の駅”ならぶ土佐佐賀”に立ち寄り、ソフトクリームを購入。坂道を上った際の信号を左折する。JR線を跨ぎ左側となり、暫く歩いた先に土佐佐賀駅(15時40分)があった。



※土佐佐賀駅へに路



※土佐佐賀への路、土佐佐賀駅

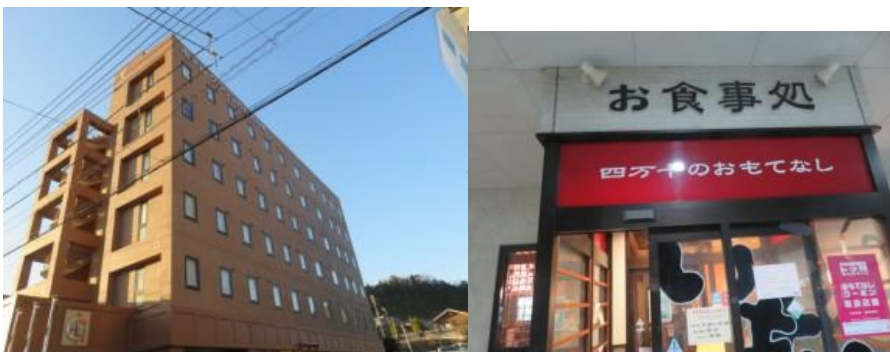


※土佐佐賀駅、列車内で

④16時3分発の列車で中村駅に向かう。中村駅には16時37分到着。駅から5分位歩いた先にホテルクラウンヒルズ中村(ホテルサンルート中村から名称変更)があった。うっかりして名称変更を失念していたため、この駅界隈で右往左往するが、地元の人のお陰で無事チェックインすることができる。ホテルで汗を流したあと、ホテルからの紹介された”いちもん家”にお邪魔し本日の疲れを癒す。



※中村駅



※ホテルクラウンヒルズ中村、いちもん家



※藤娘で祝杯！！